

学校だより



ひかわ



校訓 洗心・奉仕・鍛錬

令和3年度
氷川中学校
令和4年1月25日
第10号 文責 里永典隆

令和4年（2022年）、今年もよろしくお祈りします

令和4年（2022年）が始まりました。本年もよろしくお祈りいたします。年末年始はいかがだったでしょうか。やはり一番気になることは新型コロナウイルス。一時期、感染者数も落ち着いていましたが、年明け一週間過ぎの三連休あたりから急激に感染者数が増加しました。昨年とは違い、オミクロン株が猛威を振るい、熊本県内でも1日の感染者が過去最高を更新し、八代地域でもたくさんの感染者が報告されています。今年1年はコロナ禍が少しでも縮小し、落ち着いた学校生活を送ることができることを祈るばかりです。引き続き新しい生活様式と予防対策を進め、自他ともに命と健康を守ることにについては留意していきたいものです。

始業式では「3学期は年間のまとめの学期であり、新しい学年の0学期」であること、「目標をしっかり持つこと」について話をしました。新年にあたり今年1年間の目標を立て、その目標達成に向け、頑張るとともに、4月からの進学・進級に向けての準備の学期として取り組んでほしいと思います。また、3年生はいよいよ受験本番。目標達成に向け頑張りましょう。

一文字に心を込めて、書き初め大会！

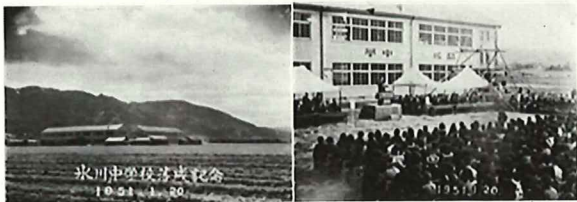
1月14日、新年はじめの行事として、書き初め大会を実施しました。講師として書道がご専門の御船高校古閑雄介先生に來校いただき、生徒へご指導をいただきました。題材は1年生が「不言実行」、2年生が「新たな目標」、3年生が「無限の可能性」でした。2時間を超える時間にもかかわらず集中して作品に取り組みました。作品は力作ばかり。生徒の集中力と作品の出来栄に感心しました。



【御船高校の古閑雄介先生】

1月18日は創立記念日

1月18日は本校の創立記念日になります。今年で創立71年を迎え、これから72年目に入ります。これまでの伝統を引き継ぎ、新しい未来に向かってさらに進んでいきたいと考えています。これからの社会で活躍していく、氷川中プライドをもった品格ある氷川中生を育てていきます。



3年生、能楽体験教室

1月18日、3年生は能楽体験教室を行いました。講師は宮原在住で日本能楽協会金春流シテ方教授の田中寿男先生に來校いただきました。「能楽」についての説明だけでなく、実際に衣装を身にまったり、人数分の能面を持参いただき一人一人が能面を体験したりするコーナーもありました。なかなかできない体験に感動するとともにしっかりと取り組んでいました。



お世話になりました、学校評価アンケート

2学期末に実施しました学校評価アンケートについて、保護者の皆様にはお忙しい中、回答いただき、ありがとうございました。いただいたご意見に対して、校内で対応する部分については、職員で会議を行い、対応していきます。また、学校だけでは対応できない部分については教育委員会や町当局に相談してまいります。結果の詳細については後日お知らせします。

楽しい学校生活を送るために！！

「心のアンケート」結果集計より

昨年12月に実施しました「心のアンケート」の結果について、お知らせします。

1 「学校生活は楽しいですか」

学校生活が「楽しい」「まあまあ楽しい」と回答した生徒は全校生徒112人中、104人92.9%という状況でした。しかし、約7%の生徒が楽しくないと感じています。理由は学習面や人間関係など様々ですが、すべての生徒が楽しく学校生活を送ることができるように取り組んでいきたいと考えています。

2 「学校の授業はよくわかりますか」

授業について「よくわかる」「まあまあわかる」と回答した生徒は77人で68.8%という状況で、昨年度より約10%減少しました。熊本県では「熊本の学び」アクションプロジェクトにより、「誰一人取り残さない学びの保障」「教職員一人一人の授業力の向上」に取り組んでいます。また、氷川町では「ひ・か・わ」型学習とICT機器の活用について積極的に進めています。これらを受け、学校においても分かる授業に向けての取組やタブレットを積極的に活用した授業づくりを進めています。わかる授業に向けて、授業の改善に取り組んでいきます。本校の学力の状況については、次の学校だよりでお知らせします。

3 「いじめられたことはありますか」

本年度になって、いじめられたことがあると回答した生徒は4人いました。内容は、「冷やか、からかい」「仲間はずれにされた」「たたかれた、蹴られた」というものでした。3人は「現在は続いている、解決した」と回答していますが、1名はまだ続いていると回答しています。現在、解決に向けて対応しているところです。学校は集団生活を送る場ですので、人間関係のトラブルや意見の食い違いが生じることは必ずあります。その中で、みんなで協力して解決していく力を身に付けていくことが大切です。そのことが社会に出たとき、社会人として生活していく時に大きな力となっていきます。困ったり悩んだりした時は一人で抱え込まず誰かに相談すること、困ったり悩んだりしている人を見たときには見て見ぬふりをするのではなくしっかりと寄り添うこと、そのような力を身に付けた思いやりのある氷川中生に育てていきたいと思ひます。

4 「自由に使える情報通信機器をもっていますか」

全校生徒112人中102人、91.1%の人がスマートフォン、携帯電話、パソコン、ゲーム機などの情報通信機器を所有しています。種類としては多い順に①「ゲーム機器71人(63.4%)」、②「スマートフォン」69人(61.6%)、③「タブレット49人(43.8%)」の順でした。「使用についての家庭での決まりがある」と回答した生徒は53人(52.0%)で、決まりがなく自由に使っている家庭がほぼ半数でした。また、個人情報やネット上に載せたことがある生徒が4人、悪口などを載せた生徒が2人いました。基本的な生活習慣の確立や家庭学習の時間確保に大きく影響しているのが情報通信機器の活用であると考えられます。また、全国的にもSNS等に関する大きなトラブルも発生しています。学校では機会あるごとに生活リズムの確立と情報通信機器の利用については話をしていきますので、ぜひご家庭でも親子で話し合う機会をつくっていただきたいと思います。

5 「自分は誰かの役に立っていると思ひますか」

自己有用感についての質問ですが、「役に立っている」「少しはある役に立っている」と回答した生徒は全校生徒112人中78人で、69.6%という状況で、昨年度より5%ほど上昇しています。氷川中生は生徒会活動やボランティア活動、あいさつ運動など積極的に活動しており、とてもがんばっているという印象を持っています。しかし、「全く役に立っていない」と回答した生徒も8人(7%)程度おり、気になるところです。小中連携を進めたり、体験活動を実施したりするなどして自己有用感を感じることができる活動をこれからも積極的に実施していきます。

学校では「心のアンケート」以外にも、各学期に教育相談期間を設定し、事前アンケートを実施して一人一人と相談する時間を設けています。3学期は2月1日から教育相談を実施します。また、忽那スクールカウンセラー、田中学校教育相談員も配置されており、週に1回程度来校していますので活用いただければと思います。各ご家庭でお子様と話をすることで気になることなどがございましたら、学校へ連絡していただき、相談していただければ幸いです。家庭と学校がしっかりと連携して、子供たちの健やかな成長に繋げていければと考えています。